

なんじゃもんじゃ

「言葉」という治療薬



管理者
細江 正彦

新年明けましておめでとうございます。市立恵那病院は、平成15年12月に開院してから今年で5年目を迎えました。思いやりあふれる医療を展開すると基本理念に詠い、今日まで自己研鑽に励み恵那市の地域医療に貢献できるように努力して参りました。

さて、医師不足看護師不足、それに医療訴訟問題 e t c と人材の問題から医療内容の問題、そして医療構造の問題など種々雑多な問題が毎日と言っているほど新聞やTV番組を賑わせています。医師になって27年が経ちましたが、医師と患者さんの関係が以前より問題視されるようになって来ています。権威主義的診察ではなく、我々は医療サービス提供者という立場でなければならぬとされるようになって来ました。時代の流れでしょうか、患者さんとのラポール（関係）をしっかりと取ることが重要とされる昨今、私も患者さんの話をじっくり聴こうという態度で日常臨床に従事してはいますが患者さんとじっくり時間をかけて話し、そして聞くというものは

「基本理念」

私たちは、地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い、信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。

「基本方針」

- 一、患者様の権利を尊重し、患者様中心のチーム医療を展開いたします。
- 二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。
- 三、地域住民に安心され、永く親しまれ、信頼される病院を目指します。



かなか難しいもので、自分の性格がせっかちなためか、早く結論を出したいという気持ちがあるが、この年になって実はまだできないでいます。むしろ研修医時代が一番患者さんのそばに行き話をしたのでないだろうかと思っている程で、限られた時間内で何とか患者さんを診ようと考えているためか、患者さんの言うことを十分に聞いていないことが多いと思います。時々一人暮らしの老人や、誰かに話を聞いてもらいたいという人が来た時には時間がかかってしまいます。そういう人達はまた、話したくて話したくて仕方ないというか、多くのことを訴えて来られる。ひとつひとつ整理してカルテに記載して、マネージメントを考え説明すると、20〜30分はかかります。それだけ時間をかけて診察するものだから、患者さんは今日は良い先生に会えてよかったと次の予約を取って帰って行かれます。そういう言葉を聞くと、患者さんが帰られた後、ため息をつくものまんならではなく、話をじっくり聴いてあげるのも良いかなと思ったりもします。

そもそも古えより医師のできることはハープ、（くすり）とメスとヴァーブ、つまり言葉を使って治療をすると言われていますが、この言葉という治療薬が最も重要とされ、8割がこれで患者さんを治療できるとされてきました。このことは今でも当たっていると思います。実はこの言葉の治療というのが現代において一番足りないもので、医師患者関係がギスギスしているのは、この言葉が足りないからだと思います。これができる医師の養成が必要だと思います。

よく名医は患者さんの歩き方や仕草で診断してしまうと言われます。憧れもしますが、それは謎解きのようなもの。私が診察時にできることは、患者さんの表情を観ながら本当に自分の診察が患者さんに満足を与えたのかをみることです。(1)表情が固い、(2)視線を合わさない、(3)沈黙している、(4)うつぶき加減の姿勢、(5)いつまでも診察椅子から立ち上がらない、(6)「ありがとうございます」といってしまいました」ということばがない。これらは危険なサインで、その時、我々はコミュニケーションを取ることでできる言葉を準備しておく必要があると思います。「何か言い残したことや、聞いておきたいことはありませんか？」という言葉が出ればいくら違うのではないのでしょうか。それをきっかけに何か返事が返ってくるかも。場合によっては患者さんにとっては「渡りに船」であるかもしれません。私はこの言葉を診察室の扉に貼っています。患者さんの仕草に注意して見逃さず、それに合わせて我々に提示できる一言が大切だと思っています。話のできる医師、良医になりたいものです。

今年には言葉という治療薬を皆で考え直してみたいと思います。電子カルテを導入して病院の機能としても、診療録管理、電算システムの充実、看護師の10・1体制の維持と、中堅病院としての機能を充実させて病院機能評価を受け、他に負けない自慢のできる病院へと質の向上を図ります。思いやりあふれる医療の展開に加え、質の高い医療を提供できるようにさらなる研鑽を積みみます。こういう時におろそかになるのが患者さんとのお話し。医の原点に返り「何か聞き忘れたことは無いですか？」と一言。本年も頑張りますので今後とも益々のご支援、ご理解を賜りますようお願いいたします。

年初のご挨拶

良い病院を目指して

病气やけがにはお盆も暮れも正月もありません。当然のことながら、その病气やけがの人を診療する病院にも盆・暮れ・正月はありません。しかしながら、新しい年を迎え、節目として、改めて市立恵那病院のあり方を考えることは大切だと思います。やはり目指すべきは、「市立恵那病院が良い病院である」ことです。当然のことながら、まず第一に患者さんにとって良い病院を目指すべきです。次にはそこで働く職員にとっても良い病院であることが大切であると思います。

患者さんにとって良い病院とは？

昨年11月に日本病院会が「患者の病院選択動向調査報告書」で、患者さんが病院選択で重視した点を、(1)診療実績が多い、医療レベルが高い(2)専門医がいる(3)良い医師がいる・と報告しています。また、経営難に陥っているある市立病院での市民アンケート調査では、(1)評判が悪い(2)他病院のほうが専門的な診療科がある(3)医療安全面で信頼できない・という結果が得られました。以上のふたつの調査報告より、患者さんの要望する良い病院像をうかがい知ることができます。

良い病院の条件とは？

病院機能評価から見た望まれる病院環境の条件がいくつか挙げられています。紙面の都合で詳細は割愛させていただきますが、以下の内容です。(1)職員の教育・研修の充実(2)地域の保健・医療・福祉施設などとの連携と協力(3)患者の権利と安全の確保(4)療養環境整備と患者サービス(5)診療の質の確保(6)医師の人事



院長 浅野 雅嘉

管理・教育と研修(7)適切な診療活動の展開・これらは市立恵那病院が良い病院となるための必要な条件です。これらの条件をクリアすることが、結果として患者さんが望まれる良い病院になれると考えます。

職員にとって良い病院とは？

その病院で働く職員にとって良い病院の条件は、前に述べた病院機能評価からみた条件とほぼ一致しますが、さらにもうひとつ大切なことがあります。それは、「楽しく仕事ができるか？仕事の充実感はあるか？」ということ。病院職員が笑顔で生き生きとしていれば、それは必ず患者さんに伝わり、良い結果が生まれます。そのような病院になるよう私も努めたいと思います。

越すべきハードル

患者さん(地域住民)にとって良い病院であり、働く職員にとっても良い病院であるためには、もう一つの越さねばならぬハードルがあります。それは経済面で安定することです。「医の原点はいかに患者を全人的に治療・管理するかにあり、収益は治療のために必要な手段を尽くした後についてくるべきものである。」と言われています。確かに原則はそうあるべきですが、良い医療を展開するための基盤として病院の運営面で経常収支を黒字にすることが大切なのです。厳しい医療情勢ではありますが、これらの制約の中において、最大限の到達を目指す努力が重要であると考えています。



冬のミニコンサート

12月8日(土)機能訓練棟を会場にして恵那市立東中学校吹奏楽部の生徒さん18名のご協力により「冬のミニコンサート」を開催しました。当日の機能訓練棟はカラフルなバルーンアートで飾りつけをし、クリスマス気分を盛り上げました。

開演時間は13時30分からだったのですが、13時頃から「まだ始まらないのですか？」と機能訓練棟の周りに患者さんやその家族の方々が集まり開始を心待ちにしていました。

歩行器や車椅子を利用して見えた方、ベッド上治療中で動けない方、面会の方々など約90名の参加をいただき、会場は熱気ムンムンでした。生徒さんたちはなれない場所と会場の熱気で頬が真っ赤になっていました。曲目は「アメージング・グレイス」や「愛唄」などで使用する金管楽器の説明を加え、演奏をしていただきました。全員合奏では塚田先生の指揮のもと息のあった演奏を聴き、車椅子の患者さんが身体でリズムをとったり、ベッド上の患者さんが手拍子をしたりと、音楽を楽しんでいる様子でした。中学生の元気な姿を見て、声を聞いて「若さつてすばらしいな」と改めて感じ、50分という短い時間でしたが、楽しい時間を過ごすことができました。

病院というところはどうしても生活が単調になりやすく、患者様の病状も様々です。そんな中でも少しでも入院生活に変化があり、音楽を聴くことで明日への活力になればと思います、今回の企画を開催しました。その趣旨にご賛同をいただき、協力していただいた恵那東中学校の皆さんに感謝いたします。



第8回 私たちの職場を 紹介します！



今回は、手術室を紹介します。

当院では、外科系医師は浅野院長をはじめ外科医3名、整形外科医2名、眼科医1名が勤務しています。手術室の看護師は6名です。外科では主に消化器系、整形では骨接合、眼科では白内障を中心とした手術を年間約400件行なっております。また、24時間体制をとっており緊急時にも対応できる体制をとっています。

手術室では中央材料室と手術室での2つの仕事があります。中央材料室というのは、主に病棟などから依頼された衛生材料の供給、患者様のニーズに合わせた材料の提供、使用済み機材の洗浄・消毒、滅菌を行なっています。患者様に使用する機材などは清潔・安全でなくてはなりません。そのため滅菌方法、器械の取り扱い方法、感染防止についてスタッフ1人1人が勉強し、知識を深め、安全なもの、より使いやすいものを患者様に提供できるように心がけています。

手術室業務について、病棟との一番の違いは患者様と接する時間・環境です。手術室に入室し退室されるまでの何時間という限られた時間のなかで患者様とお会いし、手術の介助をさせていただいているので手術室看護師の印象は患者様には薄いかも知れません。限られた時間ではありませんが、患者様が少しでも安心して手術が受けられるよう手術についての説明を事前におこなう取り組みをしています。また、手術を受けられた患



者様のところへうかがうことで自分たちの看護の振り返りをします。患者様にとって不安と緊張のなかで手術を受けられているとスタッフ一人ひとりが感じ、どのようにしたら手術が安全、安楽におこなえるのかを考え、手術前後にカンファレンスを行ない、勉強会や研修会へ積極的に参加し知識を深める努力をしています。

手術室はチームワークが重要な場所です。スタッフ、医師がそれぞれコミュニケーションを普段から大切に行っているため、とてもよいチームワークと仕事しやすい環境で働いているという実感があります。そのよさと個人の知識、技術を向上させることで患者様へよりよい看護を提供できたいと考えています。

看護師 鈴木絹代



感染対策学習会

委員会活動報告

院内感染対策委員会

当院では院内感染対策に対して、医師・看護師・薬剤師・検査技師・栄養士など各部門から委員を出して全体で感染対策の取り組みをしています。その取り組みの1つとして研修会があります。今年度は6月・11月に開催をしました。11月の内容は「手指消毒の方法」「ハンドマッサージ」「感染性胃腸炎」について行いました。

「感染」ということばを聞いて皆さんはどのように感じられますか？日常生活で「風邪を引いた」「インフルエンザにかかった」ということも「感染」です。人が生活をしている以上、「感染」をなくすことはできません。しかし体力のない人や高齢者の方が「風邪を引いた」となると症状が重くなりがちです。病院には体力のない方・高齢の方が多いため「感染」が発生すると大変なことになりかねません。ではどのように予防したらよいのか・・・その基本は「手洗い」です。手洗いの方法を図で示します。

感染対策学習会

開催のお知らせ

日時：平成19年11月19日（月）
17：30～18：30

場所：機能訓練棟

内容：手指消毒の方法
ハンドマッサージについて
感染性胃腸炎と看護について

お忙しいと思いますが多数の方の出席をお待ちしています

石鹸と流水による手指衛生の手順例



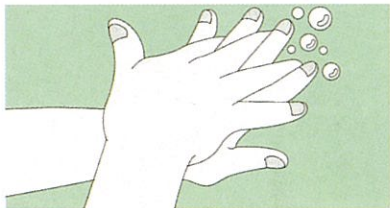
①流水で十分に両手をぬらします。手首の上5cmぐらいまでぬらしてください。



②液体石鹸液を十分量(3ml程度)取り出してください。



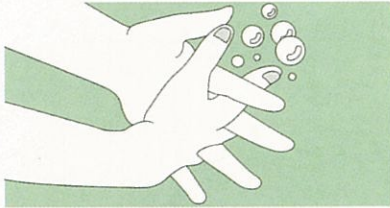
③もみ洗いのポイント① 両手のひらをよくこすりましょう。



④もみ洗いのポイント② 手の甲と指間の背面もよくこすり洗いしましょう。



⑤もみ洗いのポイント③ 指先はとくに入念に洗いましょう。



⑥もみ洗いのポイント④ 指の間もくまなく洗いましょう。



⑦もみ洗いのポイント⑤ 親指と手のひらもていねいに・・・



⑧もみ洗いのポイント⑥ 手首も忘れずに・・・



⑨指先を上に向けて流水で洗い流します。

手洗いは日常生活の中では食事の前・外出から戻った時・トイレの後など行ないます。冬のこれからの時期はインフルエンザ・胃腸風邪が発生しやすくなります。手洗いやうがいなどでしっかり予防をしましょう。

外来担当表

平成 20 年 1 月 1 日現在

午前：受付時間…(月～金)8:30～11:30 (土)8:30～11:00 診察時間…(月～土)9:00～

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	予約診療 第1診	消化器・総合診療 山田	呼吸器 近藤	消化器 改田	呼吸器 近藤	循環器・不整脈 松野	***
	予約診療 第2診	循環器・不整脈 松野	***	消化器・総合診療 山田	消化器 改田	総合診療 西原	***
	予約診療 第3診	老年・脳卒中 細江	老年・脳卒中 細江	総合診療 佐藤	総合診療・脳卒中 徳山	呼吸器 近藤	***
	初診・総合診療・救急 第5診	西原	佐藤	***	佐藤	***	交替
	初診・紹介・予約外 第6診	改田	松野	細江	山田	徳山	交替
	小児科	服部	服部	服部	服部	服部	服部 (第2・4週のみ)
外科		浅野	西科	浅野	太田	浅野	交替
		太田	大腸・肛門 太田	西科	乳腺 浅野	大腸・肛門 西科	***
整形外科		伊達	寺島	伊達	伊達	寺島	交替
眼科		水野	水野	水野	水野	水野	水野 (第1・3週のみ)
耳鼻いんこう科		***	服部	***	三村	***	***
婦人科		***	***	***	***	***	佐藤(英) (第2・4週のみ)

※内科午前診療 第1・2・3診察室は、予約患者様の診察となります。
初診・予約外再診の患者様は、内科第5・6診察室での診察となります。
婦人科は完全予約制となっています。電話で予約してください。

午後：受付時間…(月～金)13:00～15:00 (※小児科受付13:00～15:30)
診察時間…(月～金)13:30～ (※小児科診察14:00～15:30)

診療科		月	火	水	木	金
内科	初診・紹介・予約外 第6診	佐藤	徳山	徳山	西原	佐藤
小児科		服部	***	予防接種・慢性 服部	服部	予防接種・慢性 服部
外科		***	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(手術日)
整形外科		(手術日)	(手術日)	13:30～14:00 (ギプス外来)	(手術日)	13:30～14:00 (ギプス外来)
眼科		(手術日)	予約検査 水野	予約検査 水野	予約検査 水野	予約検査 水野

※水・金
14:00～手術

休診日：土曜日午後・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)※急患はこの限りではありません。
※担当医は変更になることがございますので、電話等によりお問い合わせ下さい。

職員募集

職 種：看護師(若干名)
休 日：日曜日、土曜日、祝日を含めて月7.5日以上
有給休暇：最高年間20日(採用月により変動します)
特別休暇：年末年始、夏期休暇、産前産後休暇、忌引等
※臨時職員(日勤勤務者)看護師も募集しています。下記までご連絡下さい。
市立恵那病院 TEL: 0573-26-2121 (担当 大野)



新年あけましておめでとうございます。編集委員の紹介をさせていただきます。
副病院長 近藤芳正 事務部長 宮島敏幸 手術・外来師長 林やよい
理学療法士 金子賀一 看護師 野村美香 総務係主任 度会幸枝
が編集担当です。今年もよろしくお願いいたします。

社団法人 地域医療振興協会 市立恵那病院 広報委員会
TEL 0573-26-2121(代) FAX 0573-26-5279
http://www.enahp.enat.jp/

